

「やすひさ」が行く、見る、聞く!



各地区の夏祭りや盆踊り大会にて、笑顔と元気を頂く。(8/5、松山)



地域一体の運動会に参加。(9/24、松山)



獅子舞競演会にて、各地域の伝統を拝見。(10/5、松山)



旧知の仲間たちと本年も神輿を担げることに感謝。(10/7、松山)



女性後援会の皆さんが寄せ書きでみかんツリーを作ってくださいました。沢山の応援を頂き勇気百倍、感謝一杯です。

朝一番、潮風に吹かれ、釣島の皆様にもご挨拶。



いつも通り、水産市場、青果市場にご挨拶。

「島の課題に向き合う。」 興居島



興居島の柑橘農業後継者の皆さんと勉強会。参加されたお一人お一人から、深刻なイノシシ被害や、定期便フェリーの運航時間延長、松山との間の橋の新規建設の可能性など、多くの課題を伺う。課題解決への決意を新たに。(8/26、松山)



第48回衆議院選挙



さまざまな場所で街頭演説や集会を開催。皆様の関心は「政局」ではなく、「生活」、「暮らし」にある、ということを再認識。

「人生100年時代」に備え、「全世代型の社会保障」を含め、「安心をかたちに」すべく、引き続き全力投球して参ります。



アジア太平洋地政経済学フォーラム



シンガポールにおいて、「アジア太平洋地政経済学フォーラム」が開催され、私は「アジア太平洋地域における経済連携(Economic Alliance in the Asia-Pacific Region)」とのパネルディスカッションに参加し、総選挙結果を受け、安倍政権として、日・EUEPAに続き、TPP11、RCEPへと、水準の高いルールに基づく、自由かつ公正な貿易の推進に関する決意を述べる。(10/25、シンガポール)

～あなたの声を政策に～ 参加者大募集!

ご近所やサークル、職場、ご友人など、お仲間の輪の中に塩崎やすひさが参ります。ぜひ皆さんの暮らしの「生の声」をお聞かせ下さい。
連絡先: 塩崎恭久事務所
089-941-4843 (早瀬・中田)



2017年11月29日

自由民主党愛媛県第一選挙区支部長
衆議院議員 塩崎 恭久
〒790-0003 松山市三番町4-7-19
TEL 089(941)4843 FAX 089(941)4894



やすひさの瓦版 (第109号)

Home-page <http://www.y-shiozaki.or.jp> E-mail shiozaki@y-shiozaki.or.jp

すべての皆様の「安心をかたちに」するために

菊花薫る季節となりましたが、皆さまお健やかに過ごしてはいかがでしょうか。日頃は私の政治活動へ温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて今回の衆議院総選挙では、長年にわたりご支援頂いております皆さまのお陰さまで、国政9回目の当選を果たさせて頂きました。大変多くの皆様からご期待を頂戴し、身の引き締まる思いです。

私は選挙戦で、「安心をかたちに」をキャッチフレーズに、「超長寿時代の幸せ戦略」のあり方を訴えました。人生100年時代に備え、少子高齢化、人口減少等、深刻な課題に直面する日本が時代の変化に対応するため、現役世代が安心して子育てや介護等に取り組めるよう、政策資源を投入し、「全世代型の社会保障」を実現致します。

また今回、どこに行っても建設、飲食、サービス、運送等、様々な業界で人手不足に苦しむ声を聞きました。その解消のためには、まずは生産性向上を徹底するとともに、地域が持つ資源を磨き上げ、人や企業の大都市圏への流出に歯止めをかけなければなりません。魅力的な職場・地場産業の存在が

重要であり、県外からの企業誘致や起業家精神溢れる人材の支援、イノベーションの源泉となる大学等の高等教育機関の改革、強化、そして地域経済のインフラである、松山外環状道路33号線～11号線バイパス線のH30年度事業化等や、柑橘等の「攻めの農林水産業」等、具体的な政策の実現を訴えました。

厚生労働大臣として取り組み始めた改革をしっかり前に進めることも重要です。お陰さまで、私は数え切れない程の「改革」のプロセスを始め、予防、医療、介護の全面ICT化、がんゲノム個別化医療等、一人ひとりがより健康に過ごせる長寿社会、そしてより国民負担は抑制する持続可能な社会保障制度を構築する政策に取り組んできました。新たな立場でも、引き続きしっかりとフォローアップして参る決意です。

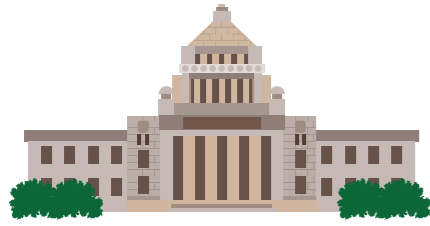
本号では、厚労大臣として取り組んだ様々な改革を特集致しました。今後も地に足のついた具体的な政策作りを先導し、改革の手を緩めず前進して参ります。引き続きのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



選挙戦を支えて下さった支援者、スタッフ始め、全ての有権者に感謝。(10/22、松山)



多摩市地域包括支援センターを訪問し、様々な見守りの実践を学ぶ。(11/13、多摩市)



厚生労働大臣として1066日間の軌跡



世界と日本を東奔西走



ダボス会議の「健康と経済成長サミット」に参加。マーガレット・チャン WHO事務局長、米国CDC長官、各国保健大臣など、保健分野の世界のトップが集まる。(2015/1/25、スイス・ダボス)



OECDの「保健大臣会合」に参加。私からは日本がいかにも、一層の健康を実現しながら皆保険制度の持続性を目指し、国民・患者目線に立ったサービス提供し続けようとしているかを紹介。(2017/1/16、フランス・パリ)



岩手県宮古市の田老保育所を訪れる。津波で旧園舎は全壊したものの、園児、職員は日頃の避難訓練のお陰で人的被害なし。診療所共々高台移転し、子供たちも皆元気。(2017/06/12、岩手県・宮古市)

熱き思いを語る

松山市で開催された日本青年会議所第63回全国大会にて、「次世代に引き継ぐ『たくましい国』日本を創造する」をテーマに講演。(2014/10/11、松山市)



日本医師会主催の「がん登録推進法に関するシンポジウム」で講演。2016年1月施行の「がん登録」は、私が深く関わり議員立法で成立させた法律で、正確な情報に基づくがんの研究が進むことを期待。(2014/12/20、東京、日本医師会館)

各界幹部が集う「日本アカデミア」で、社会保障改革や雇用政策等について講演。「働き方改革」、「子育て支援」、「介護を中心とした社会保障改革」に厚労省としてしっかりと取り組んでいく決意を語る。(2015/09/28、東京)



「医療政策サミット2017」にて日本の医療政策の今後について講演。健康寿命延伸のため、国民目線に立った医療・介護サービスを実現する決意を表す。(2017/2/18、東京)

TOPICS



☆数字で見る、「厚生労働大臣塩崎恭久」☆

厚労大臣就任中を振り返ると、様々な「数字」が見えてきます。第一に「就任期間」。塩崎やすひさの就任期間は、平成26年9月3日～29年8月3日で、1066日間。これは歴代の厚労大臣では坂口力元大臣に次いで2位となります。(自民党の厚労大臣としては最長。)第二は「国会答弁回数」。塩崎やすひさの約3年間の大臣答弁回数は7,938回で、自民党厚労大臣中2位の田村大臣の3,441回を大きく引き離しています。

数多くの改革実績

「保健医療2035」、 「働き方の未来2035」を策定

これまで約10年先の2025年までしか展望してこなかった保健医療政策について、20年先まで見通す「保健医療2035」を、20年後も現役である若手中心に策定。働き方についても「働き方改革2035」において、AI、IoTがもたらす大きな変化を前提にビジョンを提示。



「我が事・丸ごと」の 「地域共生社会」の実現へ

他人事になりがちな地域づくりを「我が事」として捉え、高齢者、障害児者、子どもなど福祉の縦割りを排し、「丸ごと」支え合う地域の機能を広げていく「地域共生社会」のコンセプトを厚労省として提案。



子ども・子育て支援の強化へ

待機児童解消に向け、「子育て安心プラン」を本年6月に策定、3年間で解消の上、5年後に女性就業率を8割にまで引き上げながら待機児ゼロをキープ。総選挙を通じ、それらの目標をさらに2年前倒し。



「データヘルス改革」で健康確保を

検診、医療、介護のデータを連結し、個人による自己健康管理を可能とするとともに、早期の予防施策、新たな治療法の開発や創薬、科学的な介護等を実現するため、「データヘルス改革推進本部」を厚労省に設置し、世界最高水準の保健医療サービス提供を目指す。



児童福祉・社会的養育制度の抜本改革

2年連続の児童福祉法改正により、子どもが権利の主体であること、家庭養育優先の原則、司法関与の強化などを実現。本年8月には「新しい社会的養育ビジョン」を取りまとめ、今後の具体的目標と工程を設定しました。



がんとの闘いに終止符を

がん撲滅を目指し、「がんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会」を設置し、質の高いがんゲノム医療提供体制の構築、免疫療法等の革新的治療法の開発などを、本年6月に提言。米国バイデン副大統領(当時)とも、ゲノム医療協力を誓い合いました。

